

白い灯台のある岬

その日、僕は仕事を半日で切り上げ
バスに乗った

終点には
白い灯台のある岬があった

時と共に移りゆく海景
風はやわらかで
波とも言えないほどの揺らぎが
海面を陽光のモザイクにしている

呼び覚まされてゆく——
言魂であるのか、それとも
熟成された記憶であるのか

僕の前を通り過ぎてゆく
ひとり、ふたり、ふたり、ひとり

流れているはずはないが
広い河の流れのような滑らかさ

陽光の棧橋の向こうに
大きな島影が見える
渡ろうと考えていた時もある
その島

次第にオレンジ色を増してゆく芝草
あの時、突然西から吹いてきた風が
今日は東から吹いている

小さな雲が暫し陽光をさえぎり
遠くの島影だけが
明るく浮かび上がっている

消えていた棧橋は
そこからゆっくりと
僕を迎えに再び伸びてくる
ゆっくりと

(2014.10.30)